

## 笠原中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

笠原中学校 笠原小学校 寿小学校

めざす児童生徒像 他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒

研究主題 他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成

### 1 主題設定の理由

近年、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。このような時代を生き抜く子供たちは、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、主体的に学び続け、他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていかなければならない。

このような「生きる力」の育成のためには、同じ地域で過ごす児童生徒の小中学校9年間の学びと育ちを見通し、地域のよさや目指す児童生徒の姿を小中の教員・保護者・地域が共有しながら、つながりをもって見守っていくことが必要である。

平成30年度から、水戸市教育委員会研究指定校として、水戸市小中一貫教育のねらいに基づき、施設分離型小中一貫教育を進めている。小中一貫教育を実施するに当たり、まず、笠原中学校区の全職員が、顔の見える関係をつくり、児童生徒を9年間の見通しをもって育てていく意識をもち、目指す児童生徒の姿を共有することが必要になってくる。その上で、児童生徒、保護者、地域、教職員が互いにつながり、学校や地域とのつながりを大切にしながら、他者と協働しながら主体的に学んでいけば、目的をもって行動する児童生徒が育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

### 2 研究のねらい

他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒を育成するための小中一貫教育の具体的な方策を計画・実践・検討する。具体的なプロジェクトは次の4つである。

- (1) 小中合同で授業改善や出前授業等を行い、児童生徒の主体的な学びを支え、学力の向上を図る。(学習プロジェクト)
- (2) 児童生徒の手による小中協働の活動を通して、小中のリーダーを育成するとともに規範意識や自己肯定感を育み、あたたかい人間関係づくりのできる児童生徒を育てる。(心プロジェクト)
- (3) 小小・小中の交流を通して、体力の向上を目指し、目標をもってあきらめずに努力する児童生徒を育てる。(体プロジェクト)

- (4) 教職員の顔の見える関係をつくり，合同研修や相互授業参観，情報発信・共有を行い，9年間を見通して児童生徒の育成を図っていく。（教職員協働プロジェクト）

### 3 具体的な取組内容

#### (1) 学習プロジェクト

##### ① 学習の統一

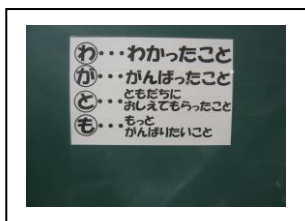
学習の統一については，3校合同研修会で，現在の取組について交流し，課題を出し合い学習統一が図れそうな共通の取組について話し合った。

##### ② E S S 部小学校訪問

E S S 部小学校訪問では，笠原中学校のE S S部の生徒が小学校を訪問し，英会話の授業に参加をした。中学生が45分の授業内容を考え，挨拶の後に自作の本を英語で読んだり，一緒にゲームをしたりして，小学生も楽しむことができた。

##### ③ 中学生学力向上サポーター

中学生学力向上サポーターでは，夏休みに入ってすぐ行われた学びの広場に，それぞれの小学校出身の中学生が学力向上サポーターとして参加した。1年次は，部活動などの調整が難しく参加できなかったが，2年次は各校数名が参加することができた。身近な中学生が教えに来てくれたことで，小学生も親しみを持ち，意欲的に取り組む姿が見られた。



資料1 振り返りの統一



資料2 ESS部小学校訪問



資料3 中学生学力向上サポーター

#### (2) 心プロジェクト

##### ① 小中交流あいさつ運動

登校時に笠原小学校の児童が中学校の正門前で中学生と一緒にあいさつ運動を行ったり，笠原中学校の生徒が，寿小学校の正門前で小学生と一緒にあいさつ運動を行ったりし，交流を深めることができた。

##### ② リーダー研修会・リーダーミーティング

リーダー研修会では，小中学校それぞれの代表の児童生徒が集まり，「笠原中学校校区をよりよい街にするため」の話合いを行った。話合いでは，「あいさつ」が課題として挙げられ，学校内だけではなく，地域の人にあいさつをするには，地域の人ともしっかりと交流を深めていくことが必要だという意見も挙げられた。そこで，リーダーミーティングを繰り返し行い，各学校で実践していった。3校合同のリーダーミーティン

グでは、中学生がリーダーシップを発揮し話し合う姿が見られた。

### ③ 明るい街づくりでの発表

3校合同で取り組んできたことの発表を笠原中学校区「明るい街づくりのつどい」で行った。学校で取り組んでいることを、各校のリーダーが発表することで、地域の方々にも学校での取組を理解してもらう良い機会となった。



資料4 小中交流あいさつ運動



資料5 リーダー研修会



資料6 明るい街づくり発表

## (3) 体プロジェクト

### ① 中学生による小学生陸上指導

小学生にも分かるよう丁寧に説明や模範を示す中学生の姿が見られた。また、身近な中学生が指導をすることで児童のモチベーションも高まり、その後の練習では、主体的に練習に取り組む児童の姿が見られた。

### ② 小学6年生の中学校部活動体験

児童が希望する部活動を2つ選択して、部活動体験を行った。各部の中学生が優しく声かけをしてくれたこともあり、小学生も安心して活動をすることができた。短い時間であったが集中して取り組み、充実した体験になった。

### ③ 三校合同サーキットトレーニング

体力の向上を図るために、3校合同でサーキットトレーニングのメニューを作成し、体育の時間に取り入れた。トレーニングの目的を児童生徒にしっかりと伝えることで、主体的に取り組む児童生徒の姿が多く見られた。



資料7 中学生による陸上指導



資料8 部活動訪問



資料9 3校合同サーキット  
トレーニング

### ④ 小学校間での校内持久走記録会の記録情報交換

校内持久走記録会では、小学校間で低学年・中学年・高学年ブロックの距離を統一し、記録会を実施した。小学校間で記録の交換をしたことにより、各学年や個人の持久力の比較と、児童一人一人の体力向上に向けた意欲付けを図ることができた。

#### (4) 教職員協働プロジェクト

##### ① 3校合同研修会

8月に笠原小学校区の3校の全職員が集まり合同研修会を行った。笠原中S Cの先生を講師に招き、カウンセリングの仕方のワークショップを行った。3校の先生が入ってグループを作ることで、交流だけでなくの情報交換の場となった。

##### ② ホームページ、各種たよりによる情報発信

各学校のホームページに小中一貫サイトを設け、小中一貫の交流行事を掲載し、外部への情報発信の場とした。また、各学校内に小中一貫コーナーを設置し、学校便りや学年だよりを毎月交換し、小中間の情報の共有に努めた。

##### ③ 3校合同引き渡し訓練

施設分離型であるが、災害の発生を想定し、1年次に計画をし、2年次には同日同時刻に引き渡し訓練を実施することができた。地域や保護者の協力もあり、児童生徒をスムーズに引き渡すことができた。



資料 10 3校合同研修会

資料 11 ホームページ

資料 12 引き渡し訓練

#### 4 成果（進捗状況と今後の課題）

##### (1) 成果

- 1年次の反省を基に、プロジェクトごとに、計画を立て実施することができた。
- 昨年度から計画していた3校合同引き渡し訓練を実施することができた。災害の際の保護者の動きや職員の対応の仕方などが分かり、継続して実施していきたい。
- 心プロジェクトを中心に、「地域のためにできること」の課題を基に、リーダー会議を繰り返し行い、児童・生徒の自主性を育むことができた。
- 学びの広場や陸上指導、E S S部学校訪問など中学生と小学生との交流が定着してきたことで、小中のつながりが強くなった。
- 笠原中学校区として、3年次へ向けての取り組む方向性がはっきりと見えてきた。

##### (2) 課題

- 施設分離型のために、リーダー会議を行うための移動に時間やお金がかかる。テレビ会議や、メールでのやり取りなどで、無理のない話合いの方法を模索していく。
- 一部のリーダーだけの活動だけではなく、校内の小さなリーダーを育てていくための組織改革が必要である。
- それぞれのプロジェクトの活動が全職員にも分かるように、活動計画や系統表を作成し、全職員が同一步調で取り組んでいけるように可視化していく。